



春……

校長 尾崎 淳一

「春」の歌を二つ紹介します。

- ① 久方の 光のどけき 春の日に
しづ心なく 花の散るらむ
- ② 記念にください ボタンをひとつ 青い空に捨てます
春なのにお別れですか 春なのに涙がこぼれます
春なのに 春なのに ため息またひとつ



①は、百人一首にも収められている、平安時代前期の歌人・紀友則（きのともりの）の和歌です。現代語訳では、「暖かく穏やかな春の日なのに、桜の花はどうして落ち着いた心もなく、急いで散ってしまうのだろうか」というような意味になります。

②は、昭和生まれの歌姫・中島みゆきさんが作詞・作曲を手掛けた『春なのに』の歌詞の一部です。昭和時代の卒業式には、好きな先輩から学生服のボタンを貰うという、謎の風習がありました。理由は言いませんが、私はこういうことには大反対でしたね。決して、私のボタンが「売れない」からではありません。「売らない」だけです！

共通するのは、「春」の穏やかで明るいイメージに反して、「寂しさ」を感じてしまう歌であるところです。桜が満開であるのはわずか数日。どうしても儂さが付きまといまいます。記念のボタンを澄んだ青い空に向けて捨ててしまうのは、卒業を機に逢えなくなってしまう恋人との訣別を決めたのでしょうか。私のボタンは、どこに捨てられたのでしょうか？

日本の春は、「別れの季節」でもあり、明るい空に反して心がざわつくのも事実です。さて、本日の修了式では、竜北生の皆さんに次のことを伝えました。

私は以前、『一期一会』という言葉を紹介しました。「一生に一度かぎりの大切な出会い」という意味の言葉です。私たちは皆、この竜北中学校で、『一期一会』で結ばれた仲間です。隣にいる人が隣にいることは、決して当たり前ではないのです。この素晴らしい奇跡に感謝しながら、自分も仲間も大切に、令和8年度も輝いてくださいね。

桜の花は、毎年同じように見えても、今年の桜の花は今年限り。桜そして竜北中の仲間との『一期一会』をしっかりと心に焼き付けておきたいものです。「春」は出会いと別れの季節でもあります。長い一生の中で、仲間と一緒に過ごせるわずかな時間をお互い大事にできたら素敵ですね。

私たち教職員も、竜北生の皆さんと同様に、勤務する学校を選ぶことはできません。この知立市立竜北中学校にて、偶然に出会った仲間です。だからこそ、運命の糸で結ばれた大切な仲間であるとも言えます。私は4月1日に就任して以来、竜北生の皆さんのおかげで、充実した毎日を過ごすことができました。心より感謝しています。

令和8年度入学式・始業式は、4月9日（木）の挙行を予定しています。竜北生の皆さん、春休みには心身を十分にリフレッシュさせて、また元気な姿を見せてくださいね。令和8年度も、「竜北生、Go!!」



竜北生は、明日から春休みを迎えます。部活動等がありますが、普段よりは時間に余裕ができることと思います。ご家庭での様子を見守ってくだされば幸いです。令和8年度初の登校日は、新3年生が8日（水）の入学式準備、新2年生は9日（木）の入学式・始業式となります。新2・3年生の活躍により、素敵な入学式になることを願っています。

（令和8年3月24日）